

平成30年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	より高い目標に挑戦する生徒を育成するとともに、その目標実現のために生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。	進路指導課 各学年	面談は年間を通して実施しているものの、志望進路が明確になるまでに時間のかかる生徒も多い。多様な進路志望に対応するため、より組織的な指導体制と生徒一人ひとりに対するガイダンス機能を強化する必要がある。	【満足度指標】 本校で行うキャリア教育や面談指導によって志望する進路先が具体的に示せるようになった生徒の割合が80%以上である。	担任との個人面談や進路ガイダンスにより、志望する進路先を明確にすることができた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
			十分な職業観を持たないために就きたい職業や学びたい学問分野を決めることができない生徒が多い。生徒個々の特長や能力をふまえ、より高い目標を設定し、最後まで努力を続けるためのサポートが必要である。	【成果指標】 第一志望の進路に合格することを重視する。	3年生で第一志望の上級学校または事業所に合格した生徒および第一志望の国公立大学に最後まで挑戦した生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	3年次9月の第一志望を元に年度末に進路状況を集計する。
2	教職員自らが資質向上に励み、不断の授業改善により生徒の学習意欲を高め自ら進んで学ぶ態度を育成する。	教務課 各教科	定期考査前の学習時間の学期による推移を見ると、昨年度は2学期の落ち込みが目立った。1学期に身につけた学習意欲や習慣を夏季休業中を経て2学期にも継続できるように生徒に意識させることが必要である。	【成果指標】 自ら継続的に家庭学習に取り組むことを重視する。2時間以上家庭学習をしている生徒の割合が60%以上である。	1日平均2時間以上、家庭で学習している生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。	年5回、定期考査前に家庭学習時間調査を実施する。
			前年度は年間5回のグループ研修とまとめの全体研修を行うことで、授業改善に向けた教員間の意識は揃いつつある。教員が自信を持ち方向性の揃った指導を行うことで、生徒の学習意欲の向上に繋がっている。	【努力指標】 （生徒）本校の教員は、生徒が主体的に学習できる授業を行っているという回答する生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満  （教員）生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れていると回答する教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、授業改善の状況、指導法を再検討する。	7月と12月に授業評価（生徒）、学校評価（教員）で調査する。	
3	教職員が自らの勤務状況を見直し、業務改善を図ることにより、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保する。	副校長 各課・学年 主任	平成29年度一年間の本校教員の時間外勤務は、全教員・月平均49時間7分であった。また、一月あたり80～100時間の教員は月平均6.3人、100時間超は2.1人であった。	【努力指標】 全教員が業務の効率化やタイムマネジメントの意識を高める。	（全教員）業務の効率化やタイムマネジメントの意識が高まったと考える教員の割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。
				【努力指標】 （各課・学年主任）主任を務める校務分掌において、業務の割り振りや効率化を図ることについて、 A：積極的に取り組んでいる。 B：取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。	A、Bが80%未満の場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に各課・学年主任に調査する。	

平成30年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4 あらゆる教育活動を通して、規律ある学校生活を送り、誠実で品位ある心豊かな生徒を育成する。	① 基本的な生活習慣の確立を図るため、遅刻を防止し、時間を守る指導を徹底する。	生徒課 各学年	平成29年度の遅刻の延べ人数は、前年度より20%増加した。時間を守ることにに対する意識の低さを改善する必要がある。	【成果指標】 遅刻の延べ人数が29年度の30%未満である。	遅刻の延べ人数が29年度と比較して A：20%未満 B：30%未満 C：40%未満 D：40%以上	C、Dの場合、遅刻が常態化している生徒に対して、保護者及び外部機関等と協力して改善策を検討する。	毎日記録し、月ごとの集計により推移を注視する。
	② 自発的な挨拶、正しい言葉遣いなどを身につけ品位のある人間性を養う。	生徒課 教務課 各部活動	挨拶をする生徒は多いものの、自ら進んで行う意識が低い生徒もみられる。	【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んで挨拶できる生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	③ いじめ防止に関する講話や教員対象の研修会などにより、生徒・教員ともにいじめに関する認識の向上を図り、いじめの起こらない雰囲気をつくる。	生徒課 保健相談課 各学年	前年度、本校が把握した複数のいじめについて、その状況を確認した結果、いずれもいじめとは断定できなかった。「いじめは必ずある」という認識のもとその把握に努め、個々の事案について、組織的かつ迅速に対応する。	【成果指標】 いじめを見逃さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。	本校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめやネットトラブルの未然防止に学校全体で組織的に取り組んでいると回答する教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。
	④ 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高め、実践する。	保健相談課 生徒課 各学年	清掃指導や「クリーンアップ運動」の実施を通して、環境保全に対する生徒の意識は高まりつつあるが、教室やトイレの消灯、ごみ出しマナーなどに一部課題がみられる。	【成果指標】 ゴミの分別、教室やトイレの消灯が正しくなされている。	ゴミの分別、教室やトイレの消灯、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	⑤ 部活動の加入率を高め、学校全体の活性化を図る。また、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮しながら、部活動が適切に行われているか検証する。	生徒課 各学年 各部活動	1・2年生の加入率は87%と上昇傾向にある。また、83%の生徒が「部活動が学校生活を活力あるものにしていく」と回答している。この結果から、部活動に単に所属しているだけでなく、部活動を通して学校生活の充実を図っている生徒が増えていると思われる。男子に比べて女子の加入率が低く、今後その方策を検討する必要がある。	【成果指標】 部活動に登録した生徒が全体の85%以上である。  【満足度指標】 学習と部活動が両立できていると考えている生徒が加入者の80%以上である。	部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒の A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満  学習と部活動が両立できていると考える生徒の割合が加入者の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、各部活動の活動内容・記録等を周知するとともに高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取り組みを再検討する。  C、Dの場合、学習と両立できるよう、各部活動の活動時間や内容等を検討する。	5月と10月に部加入率の調査を実施する。  5月と10月に部加入生徒を対象に調査を実施する。
5 学校の魅力を積極的に発信し、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	① ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	生徒課 各学年 各部活動	ボランティア活動に参加した実人数は全体の44%と全生徒の半分以下であったが、延べ人数は822人と前年度より約100人増加した。実人数増加のためには、ボランティア活動の未経験者に活動を促す手立てをもっと増やす必要がある。	【成果指標】 ボランティア活動に参加したいと回答する生徒が全生徒の80%以上である。	「ボランティア活動に参加したいと思う」生徒が全生徒の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	② 学校ホームページをより閲覧しやすいように工夫し、保護者や地域、中学生やその保護者等への情報提供を一層充実させる。緊急連絡についても、ホームページで発信できるようにする。	副校長 総務課 図書・情報課	各課、学年及び部活動からの積極的な情報発信と内容の更新により、閲覧数は急激に増加している。	【満足度指標】 学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者の割合が80%以上である。	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、提供する情報の内容等について再検討する。	7月と12月に学校評価（保護者）で調査する。